

平成24年度宮崎県青少年問題協議会議事録

1 開催日時

平成25年2月5日(火) 13:30~15:00

2 開催場所

県庁本館 講堂

3 出席者

河野俊嗣会長(知事)、有嶋誠委員、緒方東五委員、川越美佐樹委員、
後藤幾子委員、谷口由美繪委員、外山與子委員、西山昌彦委員、
矢方幸委員、力武嘉壽子委員
(欠席)黒木清委員、和田彰委員

4 次第

(1) 開会及び定足数確認

(2) 会長(知事)あいさつ

(3) 委員紹介

(4) 副会長選出

副会長に谷口委員を選出した。

(5) 議事

<テーマ> 自立に困難を抱える子ども・若者の支援について

ア 資料説明

イ 意見交換

(6) 閉会

5 意見交換の概要

(宮崎県子ども・若者総合相談センター「わかば」について)

電子メールによる相談は文字のみで感情が伝わらず、取扱いに慎重性が求められる。

電話はかける勇気が必要だが、電子メールは気軽に相談しやすいという利点がある。

電話より直接会って悩みを聞き、助言することも必要である。「わかば」が実施している訪問支援は、有効な支援方法である。

地域にも子どもや若者、その家族からの相談を聞くネットワークがあるので、「わかば」にも相談者に地域のネットワークを紹介してもらい、両者をつなげていただきたい。

高校に進学していない若者たちは、社会とのつながりが薄く、悩みを相談しにくい状況にある。これらの若者とどのようにつながりを育んでいくかが課題である。

「わかば」に相談してくる子どもや若者には、困難の解消に向けて支援することができる。問題は、相談してこない子どもや若者たちにどう対応するかであるが、県レベルではなく、もっと身近な地域社会が対応していく必要がある。

(自立に困難を抱える子ども・若者の支援について)

親が子どもだった頃から時代も社会も変化している。子育ても自分が受けてきた子育ての方法が、今の子どもたちに合わないこともある。親は、今の子どもたちに対応した子育てを学ぶ必要がある。

親が、わが子の抱えている悩みを察知するのはなかなか難しい。わが子の悩みを速く察知し、悩みを深刻化させないためには、自分が気づかなくても、周りの親が子どもの異変に気づき、親に教えてくれるような環境、親同士のネットワークが構築されるとよい。

自信をなくし、萎縮している子どもやその親たちに、自信を植え付け、希望を与えるような発信をしていただきたい。

困難を抱える子どもたちの自立へのきっかけづくり、居場所づくり、仲間づくり、自己肯定感を高めるための取組は、非常に重要である。

不登校やひきこもりの子どもたちは、なかなか支援事業に参加しない。いかに子どもたちを支援事業に参加させるか、その方法を考えていかなければならない。